



「浦和のさかえに 歴史をほこる」これまでの150年、これからの50年

# 大いちょう

令和 4年 2月 1日  
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和3年度 No. 10 048 (829) 2737

## 風が吹けば

校長 永山 誉

埼玉県のまん延防止等重点措置が実施されて10日が経ちました。新年に入ってから新型コロナウイルス感染症が急拡大し、本校においても一部学年閉鎖や学級閉鎖を実施している状況です。保護者の皆様には、急な学年閉鎖や学級閉鎖への対応に大変御迷惑をおかけしていることにお詫び申し上げますとともに、その対応に感謝申し上げます。市内全域の学校において、同様の状況となっていますが、子どもたちの活動につきましては、これまで以上に感染症対策を行いながら実施してまいりたいと思います。各御家庭での感染症対策も引き続きよろしくお願いたします。

さて、2月4日は立春。暦の上で春を迎えます。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われますが、令和4年がスタートして、すでに1か月が経ちました。新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株が出現し、私共もその対応に追われ、新年がスタートして既に1か月が経ってしまったかという感じを受けています。皆様はいかがでしょう。そのような時だからこそ、今一度これまでの対応について冷静に考え直す必要があるように感じます。パナソニック（旧松下電器産業）グループの創業者であり、PHP 研究所創設者の松下幸之助氏（1894～1989）は、その研究所の機関誌の中で次のように言っています。

### 風が吹けば

風が吹けば波が立つ。波を立てば船も揺れる。揺れるよりも揺れないほうがよいけれど、風が強くと波が大きければ、何万トンの船でも、ちょっと揺れないわけにはゆくまい。これを強いて止めようとすれば、かえってムリが生じる。ムリを通せば船がこわれる。揺れねばならぬときには揺れてもよかろう。これも一つの考え方である。

大切なことは、うろたえないことである。あわてないことである。うろたえては、かえって指針を誤る。そして、沈めなくてよい船でも、沈めてしまう結果になりかねない。すべての人が冷静に、そして忠実にそれぞれの職務を果たせばよい。ここに全員の力強い協力が生まれてくるのである。

嵐のときほど、協力が尊ばれるときはない。うろたえては、この協力がこわされる。だから、揺れることを恐れるよりも、協力がこわされることを恐れたほうがいい。

人生は運不運の背中合わせといえる。いつ突如として嵐がおとずれるか、だれしも予期することはできない。つねに自分のまわりを冷静にながめ、それぞれの心がまえを、しっかりと確かめておきたいものである。

※PHP 研究所の機関誌の裏表紙に連載した短文の中から121篇をまとめた「道をひらく」(PHP 研究所)より(原文通り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況において何ができるのか、知恵を絞ることによって新しいことが生み出されてくるものです。新型コロナウイルス感染症の出現により、1人1台端末が加速度的に整備され、2年前とは明らかに違った教育活動が展開されています。このような状況だからこそ、冷静に現状を見極め、子どもたちの健康を第一に、何ができるのかを考えながら、教職員一同協力して対応してまいりたいと思います。

各学年での活動も残り2か月となりました。進級・進学への準備としてのこの冬から春にかけての時期、子どもたちの活動がより充実したものになるよう、教職員一同気を引き締めて、子どもたちの成長を後押ししてまいります。